

学びに自分の意志をもつ子

重点 つなぐ学び

札幌市立緑丘小学校 第24回教育実践研究会

第Ⅰ期 9月18日(金)

社会	3-3	平 侑真	「工場ではたらく人と仕事」
	4-5	谷川 充	「地震にそなえるまちづくり」
	5-2	奥泉 峻	「日本の工業生産と今と未来」
算数	1-3	池野 翔太	「たしざん」
	4-2	佐野 楓河	「垂直、平行と四角形」
	2-1	三浦 聡一郎	「三角形と四角形」
図画工作	1-2	渡辺 恵美子	「スルスルビューン」
	5-1	北野 信次郎	「水から発見 ここきれい！」
体育	4-1	清橋 隆之介	「スペーストライアングルゲーム」
	6-1	齋藤 未来	「リズム高跳び～みどりっ子スターズ～」
外国語	4-3	和田 誉	「Unit7 What do you want?」
	専科(6年)	太田 麻子	「Unit5 Where is it from?」
道徳	2-2	高橋 周	「おかあさんとのやくそく」
	4-4	酒井 利来	「お母さんのせいきゅう書」
	5-3	中野 梨紗子	「セルフジャッジ」

第Ⅱ期 11月6日(金)

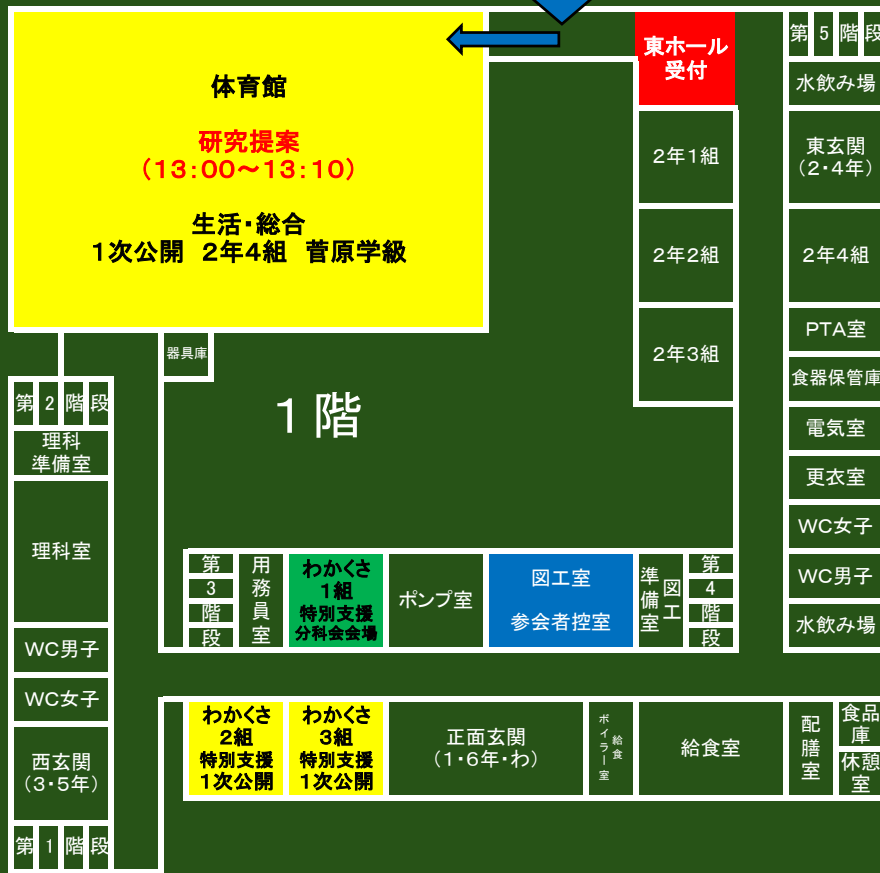
国語	5-4	羅津 日向子	「固有種が教えてくれること」
	6-4	坂野 由美子	「『考える』とは」
	5-5	中島 幹太	「想像力のスイッチを入れよう」
理科	3-1	池田 拓樹	「じしゃくのせいしつ」
	3-4	磯川 祐人	「じしゃくのせいしつ」
生活・総合	2-4	菅原 裕子	「作ってためして」
	6-3	森下 恭時	「Dreams come true.」
音楽	1-1	二木 愛花	「せんりつでよびかけあおう」
	2-3	工藤 壮生	「いろいろながっきの音をさがそう」
特別活動	3-2	黒田 健太	「3-2チャレンジ集会をしよう」
	6-2	千葉 朋輝	「『響』学習発表会をつくろう！」
特別支援	わかくさ	木村 裕昭、石川 富美、森 達也、 篠原 唯、岩井 千波、奥山 陽子	生活単元学習/自立活動「わかくさまつりをしよう！」



グラウンド

入口

札幌市立緑丘小学校 第24回教育実践研究会 Ⅱ期 会場図



・別紙もしくは下のQRコードから、研究会のアンケートの御協力をよろしくお願いいたします。



10年前・10年後

校長 三戸部 文彦

第24回緑丘小学校教育実践研究会に御来校いただき、感謝申し上げます。

本校教職員は、この日に向けて懸命に授業づくりに励んできました。中には、研究会で授業を公開するのはこれが初めて、という教職員も複数ありますが、彼らが皆同じ土俵に立ち、自分の考えをもとに、子どもたちと共に授業をつくり、見ていただいて御批正を頂戴すること、その全ての過程が教職員一人一人の確かな成長につながるものと思います。そして、それが緑丘の子どもたちの豊かで確かな「深い学び」につながるものと願っております。忌憚のない御指導をよろしくお願いいたします。

さて、現在、次期学習指導要領改訂に向けて検討がなされていると耳にします。

思い起こせば10年ほど前、前回の要領改訂時期にも、実にさまざまなキーワードが私たちの耳に入ってきました。「コミュニティ・スクール」や「チーム学校」といった大きな枠組みのものから、教育課程編成や実施、評価等、内容そのものに関わる「カリキュラムマネジメント」「道德の教科化」「外国語活動」。一コマの授業の在り方や子どもの学びのプロセスや様相にまで踏み込んだ、「アクティブ・ラーニング」など、多岐にわたっていました。

そして今、それらの流れを汲む文言とも取れる「『主体的・対話的で深い学び』の実装」(Excellence)と、まさに現代の学校の状況を象徴する「多様性の包摂」(Equity)、そして「実現可能性の確保」(Feasibility)という三つの大きな柱と、これらに付随する「調整授業時数」「余白」などといった要素が、新たな言葉として学校現場に徐々に届いています。

今回は、視覚的にも整理された図式も伴った提示で、以前よりは身構えることも少ない印象ですし、比べてみると一貫性のある部分と、新たに加わってきた課題という捉えができる分、混乱はやや少ないようですが、私にとっては、変革についていくことに必死、というのが正直なところです。

一方で、これまで進められてきた小学校研究の在り方について、自分の拙い経験も含めてふり返ると、次期要領と共に歩む今後の5年先、10年先を見据えたときにはそれこそ大きな転換期に入っていると感じます。

教職員不足の問題や、教職員の働き方改革が進む中で、これまで通りの、時間と費用をかけた研究推進は難しくなってきました。各学校で研究会の実施に負担感を感じる部分は、全くないとは言えないですし、実際に、夜遅くまで指導案検討に取り組む姿もあります。市内では、研究会を開催しても、なかなか教室を空けられないために参加者が少なくなってきました。開催側は参加者確保のために「指定参加者」という仕組みをつくり迎え入れますが、指定された側の学校では、補欠体制を組むことに困難さが生じています。校内の授業研においても、安全管理の面も含めて見守り体制が必要になり、いわゆる担任外教諭が見回りをしたり、短時間ずつ交代で授業を参観したり、という現状をよく耳にします。

このような潮流の中でも、授業をより良いものへと変えていくための研鑽は必要です。しかし、「昔はできていた。」と嘆くばかりでは変わりません。今、改めて、業務の精選と授業改善の営みを両立させる新たな方策が必要と感じます。緑丘小学校の研究推進のこれまでの歩みと、本日の研究会までの営みに心からの敬意をもちつつ、今回の研究会を礎として、未来を見据えていきたいと考えます。まさに『実現可能性の確保』、持続可能な小学校研究の在り方を追求し、教師と子どもの双方に「余白」を創出することで、子どもにとっての豊かな学びと、教師の確かな成長に繋げていく。その転換の方向性を、今後皆様と共に考えていくための、10年後を見据えた『一手』としての研究会となれば、と願っております。



札幌市立緑丘小学校 学校経営の重点

あこがれとありがとうでつながる学校

人に優しく 自分を磨く みどりっ子

「何のために★誰のために」

～聞こえる子どもの声、聞こえない子どもの声を聴く学校～

緑丘の
こころ
づくり

心のつながりを
大切にする子

同質性から多様
性を尊重する心

緑丘の
まなび
づくり

学びに自分の
意志をもつ子

誰にも自己決定
の場がある授業

緑丘の
からだ
づくり

健康を意識し
自ら行動する子

仲間・時間・
空間の創出

◆ 「何のために」から始まる教育活動

◆ 一人一人の自立を促す しなやかな教育課程

◆ 自ら進んで「創る」自治的な取組

◆ 小中9年間の一貫した教育の推進（啓明中学校区）



緑丘の研究



わたくしたちの よい学校

あこがれとありがとうでつながる みどりっ子

学校教育目標

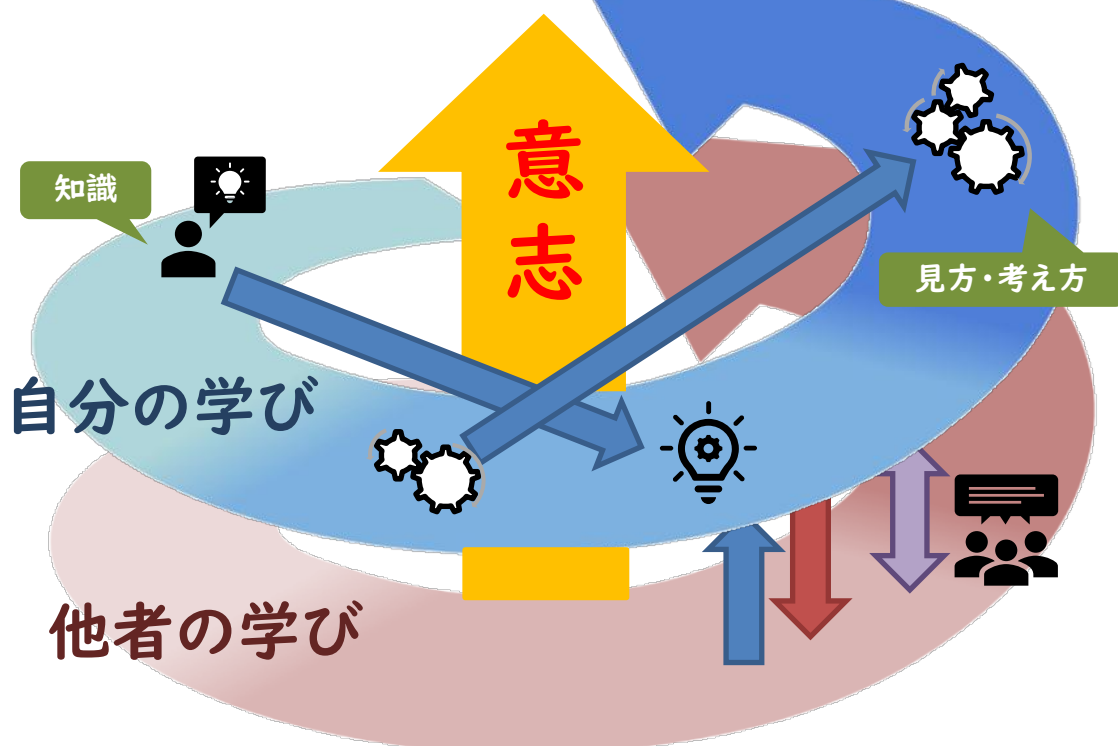
強い子・やさしい子・考える子・きまりよい子

研究主題 **学びに自分の意志をもつ子**

研究の重点

つなぐ学び

資質・能力の育成



1. 自らの学びをつなぐ

見通し⇨行動⇨結果

獲得した知識・生活経験

⇨様々な場面

学んだ学び方⇨新たな課題

働かせた見方・考え方⇨

次に働かせる見方・考え方

2. 他者の学びを 自らの学びにつなぐ

自分⇨他者

目的をもって他者とつながる

他者から学びとることを選択する

他者との学びを通して、

新たな価値を見出す

研究主題

学びに自分の意志をもつ子

「意志」とは

—「学びに自分の意志をもつ子」の育成に向けて—

本校では、令和4年度より継続して、「学びに自分の意志をもつ子」の育成を研究主題として掲げ、研究を進めてきました。3年研究の最終年となる令和8年度は、これまで積み重ねてきた実践を基に、子どもがどのような場面で学びに向かう意志を発揮し、また、その意志をもち続けることができるのかについて、子どもの姿での具現化を目指しながら研究を深めてきました。

今年度は、研究会において他校の先生方にも本校の研究を御覧いただくことを踏まえ、研究の考え方や実践の意図をより明確にしながら、「学びに自分の意志をもつ子」とはどのような姿なのか、また、その姿を支える教師の手立てとは何かについて、全校で追究して参ります。

1. 研究の出発点—教室と職員室の接続

研究の根幹にあるのが、「教室と職員室はつながっている」という考えです。この言葉は、単なる比喻ではなく、実際の教育実践において示唆的な意味をもっています。教室で展開される授業と、職員室で交わされる教師同士の対話や共有は、分断されたものではなく、相互に影響し合い、子どもたちの学びの質を規定するものであると考えます。授業研究や教材研究、日常の指導についての相談やちょっとした立ち話というような、教師同士の職員室での様々な協働が積み重なることで、授業改善の視点が共有され、子どもの学びを支える土台になっていきます。

本校では研究を、特定の授業技術を習得する場としてだけではなく、教師自身が自らの教科観や授業観、指導観、子ども観を問い直しながら成長していく過程として捉えています。教師自身が学び続ける姿勢をもつことが、子どもの学びに向かう意志を支えることにつながると考えるからです。今年度も、職員室が「授業について語り合う場所」であり続けることを大切にしていきます。

2. 研究主題の核心—「意志」をもつとは何か

「学びに自分の意志をもつ子」という表現に込められた「意志」とは、

**自ら何かを「～したい」と望み、
その実現に向けて行動しようとする内面的な働き**

と位置付けています。

この「～したい」という内発的な動機は、単なる感情（好き・嫌い）とは異なり、目的意識を伴って行動に向かおうとする意図を含んでいます。そのため、「意志」は、「願望」や「希望」をもつだけではなく、そこから実際の行動を方向付けるものだと考えます。

研究の重点

つなぐ学び

これまでの研究を通して見えてきたことは、緑丘小の子どもたちは決して「意志をもっていない」わけではないということです。むしろ、一人一人が「～したい」「やってみたい」という思いを強くもっており、日常の活動においてはそのエネルギーが表出する場面も少なくありません。問題は、それが「学び」へと向かうかどうか。そして、それが「学び続ける意志」として持続するかどうかだと考えます。

また、昨年度の研究や子どもの実態からは、「学びたい」という意欲はある一方で、「自分はできる」「自分の考えには価値がある」という自信との間にギャップがあることも見えてきました。そのため、今年度は、単に学びに向かう意志を引き出すだけでなく、その意志を支える「自信」や「学びの価値の自覚」にも着目して授業づくりを進めています。

子どもが、「前もこの方法でうまくいった」「友達のことを聞いて分かるようになった」「自分の考えが認められた」と感じることができれば、それは次の学びに向かう意志につながっていきます。私たちが目指しているのは、子どもを変えることなく、子どもが本来もっている意志を、学びに向けて発揮できるよう、教師自身が関わり方や授業の展開、環境づくりを工夫していくことです。

3. 研究の重点—「つなぐ学び」と子どもの実態

本校で継続して、「学びに自分の意志をもつ」ことに着目してきたことで、緑丘小の子どもたちの姿から、強みや課題が見えてきました。

緑丘小の子どもたちの強み

「人の役に立ちたい」という

社会貢献意欲（94%超）

札幌市教育委員会から発出されている「学習などに関するアンケート」の分析からも緑丘小の子どもたちの学習における強固な土台となっていることが分かります。

その一方で、自己表現へのためらいなど、次のような課題を抱えていることが見えてきます。

緑丘小の子どもたちの課題

- 「解決に向けて方法などの見通しをもって、活動すること、また、そこから考えたことなどを自分から発信すること」
- 「友達の意見を参考にして、自分の学習に生かそうとすること」

17	自分の目標をもって生活している。	83.3%	「解決に向けて方法など見通しをもって、活動すること」 ことに関係する項目 (特に、No.20 に関しては近年減少傾向にある。)
19	自分で計画を立てて勉強している。	76.5%	
20	疑問や課題を解決するために、 <u>自分で方法を考えるようにしている。</u>	80.8%	
22	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	88.7%	
6	自分が思っていることや感じていることを人に <u>伝えている。</u>	75.1%	「考えたことなどを自分から発信すること」に 関係する項目
7	自分の意見を <u>進んで発言しようとしている。</u>	71.8%	

「友達の意見を参考にして、自分の学習に生かそうとすること」に 関係する項目	11	新しく学んだことを、 <u>他の学習や生活の場面で使おうとしている。</u>	81.6%
	16	振り返ったことを、 <u>次に生かそうとしている。</u>	82.3%

「学習などについてのアンケート」(令和6年度実施)より抜粋

だからこそ、今年度の研究では、意志を「もつ」だけではなく、様々な場面で発揮された意志をもち続けることが重要だと考え、

研究の重点 「つなぐ学び」

を設定しました。

現行の学習指導要領が施行され、主体的・対話的で深い学びが重視される中で、「つなぐ」ことを意識した学びの重要性は以前から示されてきました。しかし、本校では、子ども自身が「つなぐ」よさを実感できることこそが、学びへの意志を発揮し、持続させる原動力になると考えています。

本校の「つなぐ学び」とは、知識同士が結び付くことだけではありません。

「前にも似たことを考えた。」「あの時の考え方が使える。」「友達の考えを聞いて、自分の考えが広がった。」というように、子ども自身が、学びがつながっていることを自覚することを意味しています。

子どもが、「学びはつながっている」「友達と学ぶことには意味がある」と感じることができれば、次の学びへの期待感が生まれ、「もっとやってみたい」「次はこうしたい」という意志へとつながっていくのではないのでしょうか。

ここで、「つなぐ学び」について、具体的な事例で考えてみます。

6年理科「水溶液の性質とはたらき」の学習の際に、水溶液に溶けているものが何かを明らかにしたいと考えた子どもが、「出てきた白い粉を顕微鏡で見れば、溶けていた物が何か分かる。」と言ってきたのです。

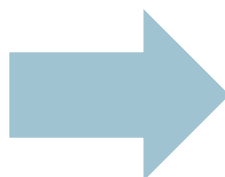
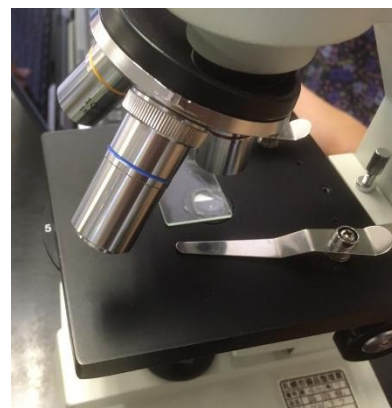
その子どもは、5年生の「物のとけ方」の学習の際に、顕微鏡で食塩やミョウバンの溶ける様子や析出した様子を観察した経験がある子どもでした。

過去の実践から

このことから、子どもは、5年生の理科の学習で、顕微鏡で観察して溶け方について明らかにした経験を、6年生の水溶液の学習につなげることで、学ぶ意志を強めたのではないかと考えました。

6 年理科

「水溶液の性質とはたらき」



5 年理科「物のとけ方」

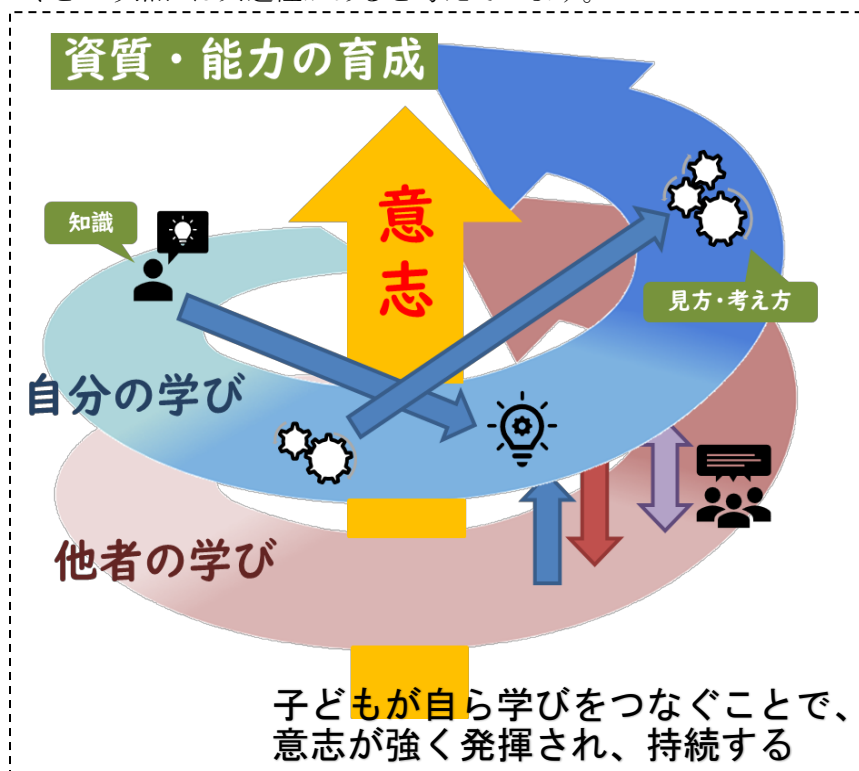
このような単元間や学年間でのつながりが感じられた事例は他の学習でも見られました。しかし、いずれも教師が意図的につながる構成にしていたのではありませんでした。もし、今回の研究で、意図的に子ども自らが学びをつなげられるようにできれば、子どもたちの意志が強く発揮され、持続するのではないかと考えました。

また、このような姿は理科だけではなく。

算数では、割合や図、式など、これまで学習した考え方を手掛かりにしながら新しい問題を解決しようとする姿があります。「前に使った図を使えば考えられそうだ。」と、自ら既習事項をつなげることは、新しい問題の解決への意志につながります。

国語では、友達の考えを聞くことで、「その言葉に注目したのか。」「自分の考えをもう少し変えてみたい。」と、自分の考えを更新していく姿があります。他者との対話を通して、自らの学びを広げていくことも、「つなぐ学び」の一つだと考えます。

このように、教科は違っても、子どもが学びをつなぐことで、学びへの意志が支えられていくという点には共通性があると考えています。



4. 2つの視点から見る「つなぐ学び」

では学習の中で、子どもは何をつなぐのでしょうか。
本研究では、「つなぐ学び」を2つの視点から具体化します。

視点1 自らの学びをつなぐ 視点2 他者の学びを 自らの学びにつなぐ 【自らの学びをつなぐ】

ここで大切にしたいのは、子どもが「この前のやり方が使える。」「この考え方でやってみよう。」と、自分の学びをつないでいく姿です。ここでいう学びには、いくつか意味があります。

◇見通し⇔行動⇔結果

つなぐ学びの1つとして、単元の見通しをもち、行動し、その結果を次の見通しにつなげるということが考えられます。これは、札幌市が課題探究的な学習を捉え直す視点として位置付けているAARサイクルとも関係の深いものだと考えています。

◇獲得した知識⇔様々な場面や生活経験

前時までの学習で獲得した知識や生活経験を活用して問題を解こうとしたり、本時で明らかにしたことを次の時間の学習、次の単元などにつなげようとしたりすることも、学びをつなぐ姿だと考えます。

◇学んだ学び方や働かせた見方・考え方⇔新たな課題

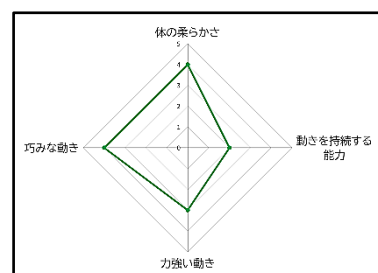
顕微鏡を使って追究した子どもの例のように、課題を解決した際に、学んだ解決の方法、いわゆる「学び方」を次の課題でも生かせないかとつなげることも学びをつなぐことになると思います。また、単元を通して見方・考え方を働かせることで、その経験が、次の単元につながり、同様に見方・考え方を働かせる姿として現れることもあるでしょう。

【他者の学びを自らの学びにつなぐ】

一昨年度の取組では、視点2を「自ら他者とつながる」としていました。しかし、実践を積み重ねる中で、交流の場を設定すること自体が目的化してしまい、「なぜ話し合うのか」「交流の先に何があるのか」という意識が十分ではなかったという反省がありました。そこで昨年度から、「他者の学びを自らの学びにつなぐ」と視点2を改め「なぜ話し合うのか」「何のために友達と考えを共有するのか」という目的をもったつながりを大事にしました。

他者がどの工夫の視点を取り入れようとしているのか可視化することで、自分と違う視点を取り入れている他者の学びもつなげられるようにした。

5年体育 「体づくり運動」



自分に合った課題を見つけるための、体力テストの数値を基にしたレーダーチャート。



工夫の視点と運動の効果の知識を運動の行い方の選択とつなげた。



終わりに

そして、今年度も大切にしたいことは、交流そのものではなく、他者との関わりを通して、自らの学びが更新されたり、広がったりすることです。

友達の考えを聞くことで、

「そんな考え方があったのか。」

「自分の考えと比べるとどうだろう。」

「その方法を取り入れてみたい。」

と、自分の学びに価値ある変容が生まれることが重要だと考えます。

そのためには、教師が単に「話し合しましょう。」と促すだけではなく、

・なぜ交流する必要があるのか。

・誰とつながると学びが深まるのか。

・交流によって何を得たいのか。

という必然性を、授業の中で位置付けていく必要があります。

子どもたちが、

「友達とつながると、こんな発見がある。」

「あの子の考えが、自分の考えを広げてくれた。」

という感覚をもつことができれば、対話や協働の価値を自覚し、それが新たな学びへの意志へとつながっていくのではないのでしょうか。

また、そのような経験の積み重ねは、自分の考えに自信をもつことや、自ら発信しようとする姿にもつながっていくと考えます。

5. 終わりに

—研究を深めるために教師自身が問いをもつ—

「学びに自分の意志をもつ子」の姿とは、具体的にどのような姿なのか。それは各教科において異なる表れ方をします。例えば、理科においては追究の仕方を変化させる姿として、社会科では、資料に浸り得た根拠を基にする姿として、国語では目的と相手意識をもち、既習や言葉を拠り所にする姿として、体育では解決に向けて自ら道筋をつけながら運動の行い方を工夫している姿として表れるのではないのでしょうか。重要なのは、教師自身が、それぞれの教科における「意志をもっている姿」を具体的に捉え、それがどのような資質・能力の育成とつながっているのかを理解し、見取ることです。

また、今年度の研究では、子どもが「学びがつながっていること」や「他者と学ぶ価値」を自覚できるようにするために、どのような手立てが有効なのかについても検証していきます。

本校の研究会では、子どもがどのようにつながりを見だし、どのような場面で意志を発揮し、また、持続させているのかという視点から、授業を御覧いただければ幸いです。

研究とは、単なる技術の研修ではなく、教師自身が問いをもちながら授業に向き合い、教科観や授業観を問い直していく営みだと捉えています。3年研究の最終年となる令和8年度は、これまで積み重ねてきた研究を整理しながら、「学びに自分の意志をもつ子の育成」の意味を改めて問い直し、研究を深めていきます。

意志をもって学ぶからこそ、育むことができる力や姿があると信じて、今年度も一步一步、研究を進めて参ります。

【参考文献】

- 白井俊著『OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来—エージェンシー、資質・能力とカリキュラム』ミネルヴァ書房（2020）
- 田村学著『深い学び』東洋館出版社（2018）
- 田村学著『学習評価』東洋館出版社（2021）
- 鳴川 哲也/塚田 昭一編著『小学校理科と個別最適な学び・協働的な学び』明治図書出版（2024）
- 鹿毛 雅治/藤本 和久編著『「授業研究」を創る—教師が学びあう学校を実現するために—』教育出版（2017）



各部の主張と指導案

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

部で示した意志をもっている姿を基に、本単元全体で想定される意志をもっている子どもの姿を記述している。

政治単元では、国の政治の働きについて学ぶことで、国民主権を担う公民としての自覚を養うことをねらう。しかし、実際の子どもの社会参画意識は低い水準であり、当事者意識には課題がある。そのため、政治に対する興味・関心を育み、暮らしと政治とのつながりを実感し、人々の願いを達成するために、どのように政治を行っているのかについて自分事として追究するための証拠を集め、選択する姿が生まれると考えた。また、そのような意志をもっている姿を、単元を通して生むことが、社会の形成者として自ら判断し社会参画していくことにつながる。

本単元での意志をもっている姿を、「なぜそのように設定したのか」「なぜそのような姿を生むのか」について具体的に記述している。

【単元の目標】

札幌市の政治は、国民主権の考えの下、市民の様々な願いを実現し、生活の安定と向上を図る大切な役割をしていることを理解するとともに、子育てサロンの見学や聞き取り調査、市のホームページや広報誌等複数の資料から証拠を集めて読み取り、整理することができるようにする。

【知識及び技能】

・子育て支援に関する政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、札幌市の政治の取組を捉え、市民の様々な願いを実現するための働きについて証拠を基に追究し、表現することができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

・札幌市の子育てに関する政治の取組について、主体的に学習の問題を解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりするとともに、多角的な思考や理解を通して日本の将来を担う国民としての自覚をもつことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

暮らしと政治のつながりが実感できる教材化

自らの学びをつなげられるようにするために、何をするのか(手立てとその意図)について記述している。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

他者につながる必然性を生む教師の関わり

他者の学びを自らの学びにつなげられるようにするために、何をするのか(手立てとその意図)について記述している。

【単元構成(8時間扱い)】

1～2時間目	3～4時間目	5～6時間目	7～8時間目(本時)
札幌市は子育てに関する人々の願いを実現するために、どのように政治を行っているのだろう？			
 <p>日本の人口は、戦後から減少傾向にある。札幌市も例外ではない。</p>	<p>様々な施設で行われている子育てサロンって何だろう？</p> <p>子育てサロンには、週3日・3時間以上開催している施設が子育て支援の場として活用されている。</p>	<p>子育てサロンはどのようにして作られているのだろう？</p> <p>子育てサロンのお金はどこから？</p>	<p>児童会館にあるのに、どうして町内会の人たちも子育てサロンを開催しているの？</p> <p>子育てしやすい地域づくりを目指しているんだね。</p> <p>子育てサロンをよりよくしていきたいな。</p> <p>市民の子育てに対する願いを実現するためには、子育て支援を補完する必要がある。</p>
<div>単元の学習課題(題材設定)</div> <div>教師が提示する学習課題・発問</div> <div>問い</div> <div>子どもの思考</div> <div>問いの解決 (単元構成の1番下では単元の学習課題の解決)</div>			
<p>札幌市は、子育てに関する人々の願いを実現するために、様々な施設やサービスを提供している。</p> <p>緑丘小や児童会館「ミラクル」、幼稚園・保育園など、自分たちの身近な施設も子育て支援の場所だ。</p>			
<p>子育てサロンは、0歳～就学前の子どもと保護者やこれから親になる人などが交流したり、子育ての悩みを相談したりできる場所。親子でどのようなことをしているかも、見学調査をして分かったよ。</p>			
<p>私たち市民の税金から保健福祉費として使われているんだね。</p> <p>市民の要望を市役所が受けて、それを基に計画・予算案を作成し、市議会で議決されると、市民の税金や国の補助金を使って実現していくよ。自分たちの暮らしと政治は深くつながっているね。</p>			
<p>市民の子育てに対する願いを実現するためには、札幌市と町内会がそれぞれの立場で、利用者の願いに合った子育てサロンになるようにしていく必要がある。</p> <p>せんきよ体験授業 自分の住む地域・町内会への関わり</p>			

単元の中で軸となる目標

網掛けや矢印などで、学びのつながりが見えるように表記している。

【本時の目標】

札幌市の子育てサロンの運営の仕方について追究する活動を通して、多様な市民の願いを実現するために札幌市や町内会が協力し、必要に応じて市や町内会が協力を求めることについて表現することができるようにする。

意志をもっている子どもの本時の目標

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（8/8）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図と関わり
<p><前時まで></p> <p>前時までの子どもの活動と思考の流れについて</p>		
<p>子育て支援の拠点「子育てサロン」をよりよくするには？</p> <div data-bbox="103 678 999 824"> <div>札幌市 児童会館「ミラクル」 週3回いつも</div> <div>子育てしやすい地域に</div> <div>町内会 南円山会館・緑丘小 年6回程度</div> </div> <div data-bbox="103 835 999 947"> <div>開催場所が多い方が、どこに住んでいる人にとっても利用しやすい場所になるはずだ。</div> <div>開催日数が多い方が、日常的に活用することができて利用しやすい場所になるはずだ。</div> </div>		<p>2つの子育てサロンの問題点について考えを明確にできるように、前時までに学んできた開催場所と日程、利用者の願いなどの証拠を想起する。</p> <p>（視点1）</p>
<p>本時の問い</p> <div data-bbox="103 1081 999 1630"> <div>場所を増やすとなると、建設費が必要になるね。でもこれ以上支出は増やせないはずだよ。</div> <div>地域の子育てサロンだったら建設費や人件費を増やすことなく運営できるよ。</div> <div>運営に携わる保育士などの人件費も必要になってしまうよ。</div> <div>でもボランティアの担い手不足や高齢化が問題にあったよね。</div> <div>場所が増えると利用者が分散して、地域ネットワークとしての機能を失ってしまわないかな。</div> <div>児童会館の子育てサロンと違って運営費もほぼ無いから、運営できなくなるかな。</div> <div>日常的な居場所や保育士に相談したい人にとっては、児童会館の子育てサロンが必要だね。</div> <div>家の近所や地域住民とのつながりがほしい人にとっては地域の子育てサロンが必要だね。</div> <div>それぞれの立場で利用者のニーズに合わせて、開催場所と開催日数を補い合っているね。</div> </div>		<p>教師の意図や関わりについて記述している。</p> <p>視点1・2に関わる手立てのほか、教科的な手立ても記述している。</p> <p>ときには、同じ立場の人と考えを共有するよう促す。</p> <p>（視点2）</p>
<p>本時の問いの解決</p> <div data-bbox="103 1809 999 1966"> <div>児童会館の子育てサロンを続けていくために、将来税金を納めたり、自分の思いを実現してくれる人に投票したりしたいな。</div> <div>地域の子育てサロンを続けていくには地域住民が参加していくことが必要。自分も町内会の行事に参加してみようかな。</div> </div>		<p>子育てサロンを通して見える暮らしと政治とのつながりについて振り返る時間を担保することで、今の自分や将来の自分がどのように社会参画していくかという意識につなげられるようにする。</p> <p>（視点1）</p>

子どもの考えや活動が、前時までのどのような学びをつなげている姿なのか明確になるようなキーワードを、子どもの学習活動や時間帯と揃えて記述している。

【本時の評価】

札幌市の子育てサロンの運営の仕方について、多様な市民の願いを実現するために札幌市や町内会の

本時の目標に照らし合わせた際に評価する子どもの姿と評価方法

（行動観察・発言・ノート）



国語部会

部の主張 指導案

国語科を通した意志をもっている姿

言語活動に目的と相手意識をもち、活動の中で生まれた課題を、既習や言葉を拠り所にして解決している姿

視点 1

自らの学びをつなぐ

【その姿に向かうために】

- 指導事項を習得するために効果的で、教材に合った言語活動を設定することで、子どもが期待や見通しをもって言語活動に取り組むことができるようにする。
- 単元を通して全文シートなどのワークシートを繰り返し使い、自分が考えたことや気になった叙述を書き溜めていくようにする。そうすることで、子どもがこれまでの学びを自覚し、毎時間学んだことや考えを積み上げていけるようにする。
- 子どもが学び方や考え方を生かしながら学習を進めていくために、前学年・前単元との学びのつながりを教師が把握し、子どもがこれまでの学び（例えば読みの視点・言葉の吟味等）を使ったり、新しい学びを獲得したと意識したりできるような単元構成にする。

視点 2

他者の学びを 自らの学びに つなぐ

【その姿に向かうために】

- 言語活動をしていく中で生まれた問いのうち、その活動の目的・相手のために解決しなくてはならないものを課題とする。そうすることで、子どもが課題を解決するために他者の考えを求め、交流を通して、自分の考えが広がったり深まったりする価値を感じられるようにする。
- 子どもが「〇〇の考えを聞きたい。」「〇〇に自分の考えを言いたい。」と交流の目的を意識しながら相手を見付けるようにするために、子どもがどんな視点で考えているのか、その視点でどんな考えをもっているのかを見取り、他の子どもに広げるよう関わる。
- 子どもの成果物や振り返りを教師が評価していく中で、その子の考えを把握し、目標到達するためにどのような学びが必要か捉える。そうすることで、教師の助言を受けながら、子どもが自分の考えをより深める交流をしたり、個人で考え続けていた子どもが他者の考えに目を向けたりできるようにする。

「固有種が教えてくれること」「自然環境を守るために」

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

説得力を高めるために、文章と図表を結び付け、筆者の意図を探ったり、資料を吟味して選んだりしている姿

本単元では、文の構成だけでなく「資料」に着目し、文章と図表を結び付けながら筆者の意図を捉える力を養う。子どもたちは、自分の考えをもつことはできるが、根拠を基に主張したり、自信をもって表現したりすることに苦手意識がある。そのため、自分の意見を伝えるためには、どのような論の進め方・資料の選び方が大切かに気付かせたい。そこで、教材文を読んで筆者の工夫（「匠の技」とする）を習得する学習と、それを基に新聞のトップ記事を書く学習とを往還させる「入れ子構造」の単元構成とし、毎時間、筆者の工夫を自分のものに取り入れることを意識できるようにする。そうすることで、自分の学びにつなげようと、文章と図表を結び付けて筆者の意図を探ったり、資料を吟味して選んだりする姿を生む。こうした姿が、根拠を基に考えを形成し、表現する力を養い、自ら情報を吟味しながら考えを主体的に発信しようとする態度を育むことにもつながる。

【単元の目標】

- ・原因と結果など、情報と情報との関係について理解することができるようにする。【知識及び技能】
- ・目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして、論の進め方について考えたり、筆者の意図を見付けたりすることができるようにする。また、読み取った筆者の工夫を生かし、自分の考えが伝わるように、文章構成を考えたり、資料を吟味して選んだりして、新聞記事の書き表し方を工夫することができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・学習の見通しをもって、粘り強く文章と図表等を結び付けて読み、読み取った筆者の工夫を生かしながら、図表などの資料を用いた新聞記事を書こうとすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

匠（筆者）の技を自分の学びに生かす単元構成

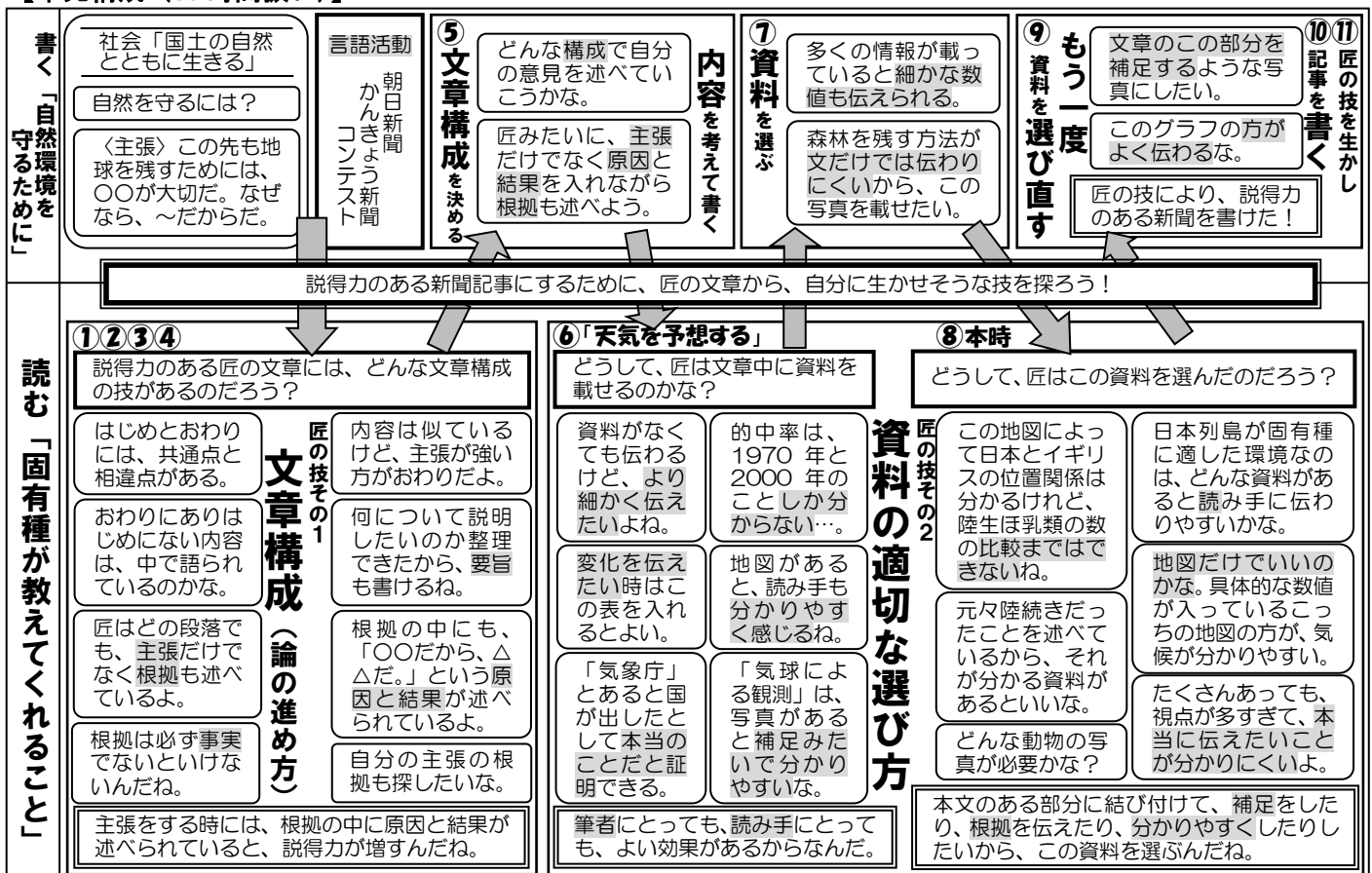
本単元で学習する匠の技を自分の意見文に生かすため、社会科で学習した自然環境についての新聞を書き、新聞コンテストに応募することを言語活動とする。読む活動と書く活動を往還する入れ子構造を取り入れ、学習した匠の技を即時に自分の学びに活用することができるようにする。論の進め方や文章と資料の結び付き、資料を精選した筆者の意図に着目し、「なぜこの資料なのか。」「自分なら何を選ぶか。」を考えることで、読みを深めるとともに、根拠を基に表現する力を育てたい。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

他者につながる必然性を生む単元構成や資料の工夫

本時では、教材中の資料について追究する活動を通して、資料を精選する必要性や匠が資料を選んだ意図を考える。そのため前時には、他教材を用いて、文章と図表を結び付けながら考える時間を設定する。そうすることで、「前は〇〇だったから今回も…」と既習を生かした交流が生まれると考える。また、交流の足掛かりとして、教材中にはない資料を用意する。どの資料が適しているかの理由を語り合ったり、複数の資料を比べて吟味したりする姿を生むことで、思いを伝え合う力を育てたい。

【単元構成（11時間扱い）】

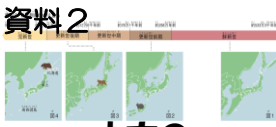
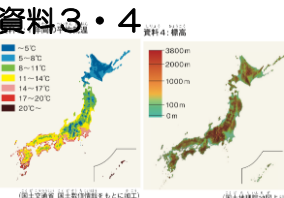


【本時の目標】

文章と図表を結び付けながら筆者が選んだ資料について追究する活動を通して、資料の精選の必要性和筆者が選んだ資料の意図に気付き、資料の選び方について考え、それを自分の言葉で表すことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（8/11）

子どもの意識と活動		つながっている学び	教師の意図と関わり												
<p>＜前時まで＞ 教材全体の内容把握を終え、説得力のある文章構成にするには、時系列に並べたり、根拠の中に原因と結果を述べたりと、効果的な論の進め方に気付いている。また、「天気を予想する」という教材の学習を通して、資料には「補説的な効果」「論を裏付ける証拠としての効果」などがあることを知り、筆者にとっても読み手にとっても、資料を載せることがよいことだと気付いている。これらの気付きを生かし、自分の新聞のトップ記事の構成を考え、内容に合った資料の候補を選び始めている。</p>															
地球温暖化対策が具体的に分かるよう、写真を載せようと思っているよ。		変化を伝えたいからグラフを載せたい。	資料がなくても伝わるけど、あることで、読み手が分かりやすく感じるよね。												
<p>「天気を予想する」で考えたように、どの資料がふさわしいか考えてみよう！</p>															
大量にあるけどこんなに載せたのかな？	似ている資料だけど、どちらがいいのかな？	どの部分を読むとよいのかな？	<p>教材に合う資料の精選の必要性和、筆者の意図を追究する活動への意欲を高めるため、前時の学習を振り返る場を設定する。それにより、他教材で培った文章と図表を結び付ける読み方を想起できるようにする。（視点1）</p> <p>本時では、教材中の資料以外にも用意する。文章にない情報入り、不要な数値入りなどの資料を用意することで、「Aの資料でも伝わるはずなのになぜBの資料なのだろう。」と、必要感をもって迫ることができるようにする。（視点2）</p> <p>資料1のみを学級全体で追究することで、資料2以降でも、他者の考えを求めながら、自分の考えに生かすことができるようにする。自信がなくても、他者から気付きを得たり、確認し合ったりすることができるように関わる。（視点2）</p> <p>数ある資料から選ぶ場を設定し、匠の技とその難しさを実感できるようにする。そうすることで、自分の主張を読み手に伝えるには資料をどう選ぶ必要があるか、複合単元の目的意識につなげられるようにする。（視点1）</p>												
<p>どうして、匠はこの資料を選んだのだろう？</p>															
<p>資料1</p>  <table><tr><th></th><th>国土面積</th><th>陸生は気候の種の数(うち陸生種)</th><th>1万m以上の種の数(うち陸生種)</th></tr><tr><td>日本</td><td>約37.8万km²</td><td>107種(48種)</td><td>2,83種(127種)</td></tr><tr><td>イギリス</td><td>約24.3万km²</td><td>42種(0種)</td><td>1,73種(0種)</td></tr></table>		国土面積		陸生は気候の種の数(うち陸生種)	1万m以上の種の数(うち陸生種)	日本	約37.8万km ²	107種(48種)	2,83種(127種)	イギリス	約24.3万km ²	42種(0種)	1,73種(0種)	<p>資料2</p> 	<p>資料3・4</p> 
	国土面積	陸生は気候の種の数(うち陸生種)		1万m以上の種の数(うち陸生種)											
日本	約37.8万km ²	107種(48種)		2,83種(127種)											
イギリス	約24.3万km ²	42種(0種)		1,73種(0種)											
<p>本文のこの部分を…</p>															
<p>「陸続き」はこういうことか！図があるから分かる。</p>															
<p>文章の中に「寒い」はあるけど、降水量については叙述がないから必要ないね。</p>															
<p>1つの地図に、気候と地形について書かれていると、視覚的に見にくくて分かりにくいよ。</p>															
<p>2つ並べると、環境の豊かさが伝わる。</p>															
<p>地図と表が組み合わさっているよ。地図だけだと、位置関係は分かるけど数の比較はできない。</p>															
<p>Aの地図にはイギリスが載っていない。</p>															
<p>文章の内容とこの数値は関係がない。だからこの表は必要がないよ。</p>															
<p>資料1のように組み合わせると成り立ちが分かるね。</p>															
<p>文章は、更新世前期→中期→完新世と時系列に並んでいる。図もその通りに並べたい。</p>															
<p>補足したい 根拠を伝えたい 比較させたい</p> <p>分かりやすくしたい 視覚的にも伝えたい</p> <p>…だから、この資料を選ぶんだ！</p>															
<p>文章と結び付けることによって、本当に必要なのはどんな資料なのかが分かったよ。本文にある部分について、補足したり根拠を伝えたりしたいから、この資料を選ぶんだね。</p>															
自分が選んだ資料も本当に必要か選び直したい。	友達に読んでもらって、この資料で伝わっているか聞いてみようかな。	伝えたいデータがもっと伝わりやすい表はないかな。													

【本時の評価】

文章と図表を結び付けながら筆者が選んだ資料を追究する活動から、資料の精選の必要性和筆者が選んだ資料の意図に気付き、資料の選び方について自分の言葉で表すことができている。（ワークシート・学習の様子）

『考える』とは

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

「考える」ことについて自分の考えをまとめるために、獲得した読み方を駆使して、文章と対話している姿

本単元では「考える」ことについての文章を読み、理解したことを基に自分の考えをまとめることをねらう。しかし、文章の内容は理解できても、そこで生まれた自分の考えを理由や文章中の根拠を明確にしてまとめることには課題があるため、単元を通して文章と自分の経験や知識と関連付けることが求められている。そこで、本単元では、文章を読みながら、3人の筆者それぞれの考えについて、これまで獲得した読み方を手札として、そこから選択しながら追究できるようにした。そうすることで、一読では理解や共感ができない文章でも、読み方の手札を駆使しながら向き合い、自分の経験や知識と結び付けながら筆者の考えを理解しようと文章と対話する姿が生まれると考えた。また、そのような意志をもっている姿を、単元を通して生むことが、自分の考えや思いを広げたり深めたりする手段として読書を使ったり、同じテーマの本を複数選んだりしていくことにつながる。

【単元の目標】

- 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解できるようにする。また、思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使い慣れるようにする。【知識及び技能】
- 3人の筆者の文章について、獲得した読み方を駆使しながら理解したことを基に、自分の考えをまとめることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- 学習の見通しをもって、複数の文章から「考える」ことについて捉え、自分の経験や知識と重ね合わせながら考えをまとめ、伝え合おうとすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

視点 1 自らの学びをつなぐ

自分の考え・読み方の成長を自覚する教材化

自分にとっての「考える」ことを2回捉え、その間に筆者の文章に触れる単元構成にすることで、自分の考えがだんだんと成長していくことを自覚できるようにする。さらに、これまで学んだ読み方を手札にしてもつことで、自分の読み方を自覚し、その方法を駆使して筆者の考えを理解しようとする姿が生まれると考えた。そのような読み方を、3人の筆者に対して繰り返すことで、子どもがどの読み方で文章に向き合うか選択し、自分の読み方の成長を自覚する姿をねらう。

視点 2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

他者につながる必然性を生む教師の関わり

手札を駆使して文章と対話し、筆者の考えを理解しようとしていくと、独りよがりな読みになってしまうこともある。そこで、自力解決を班で話し合いながら読み、班での成果を求める活動にして、交流する必然性を生む。また、「今回の文章にはどんな読み方で迫るのがよかったか。」と問うことで、自分の読みを語ったり、他の読み方で読んだ人を求めたりするようにする。そうすることで、他者の読み方を自分でも試そうと、再び叙述に立ち返るなどの、対話する姿をねらう。

【単元構成（6時間扱い）】



【本時の目標】

筆者の考える「考える」ということについて追究する活動を通して、見通しをもって読み方を駆使し、書かれている事例や筆者の主張を自分の経験や知識と重ね合わせて捉え、捉えたことを基に「考える」ということについて考え、表現することができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（5/6）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図と関わり
<p>＜前時まで＞</p> <p>2人の筆者の文章を、読み方（手札）をいろいろ使いながら、自分に近付けて捉え、それを基に自分の考えをまとめている。筆者の考えをよく捉えることにより、自分の考えが広がったと感じ、そのためにどんな読み方をすると、筆者の考えをより自分に落とし込んで理解できたかについて、読み方（手札）それぞれの価値を感じている。また、友達の読み方を参考にしながら、最後の筆者の文章も、読み方（手札）を駆使して読み解きたいという思いをもっている。</p>		
<p>「考える人の行動が世界を変える」中満泉さんの文章を読もう。</p> <div> <div>尾括型になっている。おわりの文章が、筆者の主張になるね。</div> <div>中満さんは「考える葦になる」と主張しているけど、どういうことなのかな。</div> </div>	<p>精査解釈の読み方構成</p> <p>筆者の主張</p>	<p>読み方を札にして、手元に置き、自分で札を選びながら読み取っていけるようにすることで、自分がどんな読み方をしているのか自覚し、「この読み方ではこれが分かった。」「次は…。」と持っている手札を駆使しながら文章に向き合うことができるようにする。</p> <p>（視点1）</p>
<p>筆者の中満さんは、「考える」ことをどのように捉えているのだろうか？</p>	<p>筆者の背景から</p>	<p>「筆者の考えを自分により近付けて理解する」にはどんな読み方が合っているのか問うことで、自分の読みを語ったり、他の手札で読んだ人を求めたりして、叙述に立ち返ることができるようにする。</p> <p>（視点2）</p>
<p>関係があると考えた叙述を</p> <div> <div>【表現の工夫から】</div> <p>筆者は名言を使って、たとえ葦のような非力な存在でも、「考える」ことで大きな力が発揮できることを印象付けている。</p> </div> <div> <div>【事柄同士を比べて共通点や相違点を】</div> <p>AIは効率的な結論を導くだけ。人が「考える」ことは違うね。前回読んだ石黒さんも同じようなことを言っていたな。</p> </div>	<p>事柄同士を比べて共通点・相違点を</p>	<p>「筆者の考えを自分により近付けて理解する」にはどんな読み方が合っているのか問うことで、自分の読みを語ったり、他の手札で読んだ人を求めたりして、叙述に立ち返ることができるようにする。</p> <p>（視点2）</p>
<p>【筆者の背景から】</p> <p>筆者は難民を保護する仕事をしている。そこで出会った人から、考えが広がったんだね。</p>	<p>繰り返し出てくる言葉から</p>	<p>「筆者の考えを自分により近付けて理解する」にはどんな読み方が合っているのか問うことで、自分の読みを語ったり、他の手札で読んだ人を求めたりして、叙述に立ち返ることができるようにする。</p> <p>（視点2）</p>
<p>【自分の経験・知識を重ねて】</p> <div> <div>弱者に寄り添うのが大切という考えは、この職業をしているからこそ生まれるものだ。</div> <div>とても勇気のいることだ。友達がみんな正しいと感じていることの逆を選ぶってことだもの。</div> </div>	<p>表現の工夫から</p>	<p>「筆者の考えを自分により近付けて理解する」にはどんな読み方が合っているのか問うことで、自分の読みを語ったり、他の手札で読んだ人を求めたりして、叙述に立ち返ることができるようにする。</p> <p>（視点2）</p>
<p>筆者の中満さんは、「考える」ことを、社会の流れに囚われず何が正しいか判断することと捉えているね。</p>	<p>自分の経験知識と重ねて</p>	<p>「筆者の考えを自分により近付けて理解する」にはどんな読み方が合っているのか問うことで、自分の読みを語ったり、他の手札で読んだ人を求めたりして、叙述に立ち返ることができるようにする。</p> <p>（視点2）</p>
<p>自分の「考える」花づくり</p> <div> <div>石黒さんも中満さんも、「考える」ということの価値を教えてくれた。私にしかできない「考える」ことを大事にしたい。</div> <div>私も事例の3人のように、周囲に惑わされず、弱い立場に寄り添った正しい考えをしていきたい。</div> </div> <p>振り返り</p> <div> <div>事例の3人を比べてみると共通点があり、筆者が何を大事にしているのかについて理解が深まった。そのおかげで、自分の考えも広がった。</div> <div>事例について、自分にもそんなことができるのか考えてみたら、かなり難しいことだと分かり、3人のすごさを実感した。考えることの価値を感じた。</div> </div>	<p>考えのまとめ方</p> <p>自分に必要なことを取り入れながら考える</p>	<p>単元を通して筆者の考えを自分に近付けて捉えたことを基に、自分の考えに必要なことを取り入れながら「考える」ということについて述べる活動を位置付けることで、自分の考えの広がりや深まりを実感できるようにする。</p> <p>（視点1）</p>

【本時の評価】

叙述の事例や筆者の主張を自分の経験や知識と重ね合わせて捉え、そこから自分に必要なことを取り入れながら「考える」ということについて考え、表現することができる。（行動観察・発言・ワークシート）

「想像力のスイッチを入れよう」

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

文章に説得力をもたせるために、叙述と日常生活をつながげながら、考えをまとめようとしている姿

第 5 学年の説明文の学習では、文章の構成や内容を捉え、筆者の主張に対し自分の考えをまとめる力を養う。しかし、字面だけの浅い理解から自分の考えをまとめる子どももいる現状がある。学習指導要領でも文章を読んで理解した内容を既知の知識と結び付けることが求められている。そこで本単元では、「下村さんから学んだ情報との付き合い方をまとめて、お家の人に宣言しよう」を言語活動とした。そうすることで、読解や考えの形成に相手意識と目的意識が生まれ、自分の考えを説得力のあるものにしたいという思いをもちながら、叙述から筆者の意図を読み取ったり自分の日常生活とつなげたりして、考えをまとめる姿が生まれると考えた。このような意志をもっている姿を、単元を通して育むことは、日常生活や他単元でも、他者と比較しながら、自分の考えに説得力があるのか吟味しながら言葉にこだわる姿勢につながると考える。

【単元の目標】

- ・文章の構成や展開、事例と意見の関係について理解することができるようにする。【知識及び技能】
- ・事例と意見の関係や筆者の意図など文章を読んで理解したことに基づいて、仲間の考えや日常生活とつなげて、自分の考えをまとめることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・積極的に文章を読んで理解したことに基づき、情報との付き合い方について説得力を意識して自分の考えをまとめ、伝え合おうとすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

視点 1 自らの学びをつなぐ

見方や考え方をつなげる全文シート

教材文と関連付けて、日常生活で目にするニュースや記事を教材化し、教材文で学んだ事例と意見のつながりを、新たな情報を捉える際にも生かせるようにする。全文シートには、日常生活の事例や自分の考えを付箋で位置付け、互いのつながりを可視化する。これにより、教材文で学んだ見方や考え方を日常の情報にも働かせ、情報を自分なりの根拠をもって捉え直せるようにする。その学びを基に、自分の情報宣言を練り直し、今後の情報との関わり方を自ら選択しようとする姿をねらう。

視点 2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

説得力を高めるための読み合いの必要感

自分の考えを基に「情報宣言」を書いていくと、自分の表現が相手にとって説得力のあるものになっているか、判断することが難しい。そこで、お家の人に納得してもらえ「情報宣言」を目指し、友達と互いの考えを読み合う場を設定する。また、意見と事例のつながりや言葉の工夫などに着目して読み合うよう促す。そうすることで、自分にはなかった考えや表現のよさを取り入れて考えを更新し、より説得力のある言葉を吟味する姿をねらう。

【単元構成（7 時間扱い）】

<p>① 情報と自分はどうか付き合っているのかな？</p> <p>普段 LINE を使っているよ。</p> <p>新聞問題で、情報の見方が広がるなって思ったよ。</p>	<p>お家の人からのアンケートに「SNS の使い方が心配」という声が多いね。使えるよってことを伝えるにはどうしよう。</p>	<p>筆者の下村さんが「情報との付き合い方」について書いていますよ。</p>	<p>情報との付き合い方を自分の生活や経験とつなげたら、お家の人もより納得しそう。</p>
<p>お家の人に納得してもらうために、説得力のある情報宣言を考えよう。</p>			
<p>②③ 『想像力のスイッチを入れよう』で筆者は私たちにどんなことを伝えたいのかな？</p> <p>情報を受け取る努力や思い込みを防ぐことが必要とあるよ。</p> <p>図形の例で事例と意見のつながりがよく分かったよ。</p> <p>事例と意見のつながり表現の工夫（筆者の意図） 筆者の主張</p> <p>最後の文は比喻を使っているね。意図がありそう。</p> <p>筆者は「情報に対して想像力のスイッチを入れてほしい」と主張しているよ。</p> <p>筆者はどんな事例を使って意見を言っているのかな？</p>	<p>④ 筆者の事例と意見にはどんなねらいがあるのかな？</p> <p>事例の文を追加して意見とのつながりを大切にしているね。</p> <p>事例の工夫（筆者の意図） 日常生活とつなげる</p> <p>まだ分からないよねスイッチは、遊びの約束のときに意識できそうだな。読み手にスイッチを入れてほしいから、筆者は事例も工夫していると思ったよ。</p> <p>新聞問題でやった熊本地震の偽動画の記事も想像力のスイッチを入れることができそうだね。自分で事例を入れることでも説得力があがりそうだよ。</p> <p>意見を分かりやすくするために、つながりのある事例を使っているんだね。</p>	<p>⑤⑥ 本時⑥</p> <p>情報宣言をまとめてみたよ。</p> <p>説得力がある考えにしたいな。</p> <p>自分や仲間の考えでどこにどんな説得力の工夫があるかな？</p> <p>仲間が「自分が日常生活で生かしたいこと」を書いていて、実際に使おうとしている場面があると説得力があるなと思った。</p> <p>仲間の考えとつなげる 日常生活とつなげる</p> <p>仲間の考えを生かして、「特に友達と LINE するとき」を加えたよ。</p> <p>仲間の考えや日常生活とのつながりがあるとさらに説得力が高まりそう。自分の考えに生かしたいな。</p>	<p>⑦ 説得力を高める工夫を使って、自分の考えをまとめよう</p> <p>私は日常生活の事例とつなげる技を使って説得力を高めてみたよ。</p> <p>前の時間話してない人にも相談して説得力があるか確かめたいな。</p> <p>説得力を意識して、情報宣言をまとめることができたよ。お家の人に納得してもらえるか楽しみだな。</p>

【本時の目標】

仲間と情報との付き合い方についての考え（情報宣言）を読み合い、説得力がどの部分に表れているか考える活動を通して、事例と意見のつながりや日常生活とのつながりなどの説得力の工夫を改めて捉え、説得力のある考えをもつことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（6/7）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図と関わり
<p>＜前時まで＞</p> <p>筆者の挙げた事例と意見を整理し、想像力のスイッチがどんな日常の場面で活用できそうかについて、考えを蓄積している。筆者の主張や事例を読み、前時では自分の情報宣言の構成メモを作成している。また、お家の人に自分の情報宣言で納得してほしいという思いから、保護者が情報との付き合い方で気を付けてほしいことを意識しつつ、自分の考えの説得力を高めたいという思いをもっている。</p>		
<p>前時の確認</p> <p>情報宣言をまとめてみたよ。</p>	<p>お家の人に納得してもらうために、説得力を高めたいな。</p>	<p>事例と意見のつながり以外の説得力の工夫があるかな。</p>
<p>自分や仲間の考えでどこにどんな説得力の工夫があるかな？</p>		
<p>仲間と考えを読み合い、説得力の工夫を共有する。</p>		
<p>事例と意見のつながり</p> <p>これを聞くと、あなたは、Aさんが何をかくしているように思わないだろうか。しかし、裏口から出たのは、その方向に行かなくてはいけない。こう想像してみると、「報道陣をさけるためか」というのは、レポートがいだいた印象にすぎない可能性がある。また、急がなければならぬ理由があったのかもしれないから、「にげるように」も印象だ。このように、想像力を働かせながら、一つ一つの言葉について、『事実かな、印象かな。』と考えてみるのが大切である。</p> <p>私は、友達と話すときにもこのスイッチが大切だと考えました。友達の話も自分の話も、相手に間違った印象を与えないようにしたいです。</p> <p>叙述とつなげる</p> <p>仲間の考えとつなげる</p> <p>日常生活とつなげる</p> <p>事実かな印象かなスイッチは、間違った情報を事実として考えてしまいかもしれないから大切だと思います。</p>		
<p>スイッチだけしか書いてなかったけど、仲間が「自分が日常生活で生かしたいこと」を書いていて、実際に使おうとしている場面があると説得力があるなと思ったよ。</p>	<p>仲間の考えを生かして、「特に友達とLINEするとき」を加えたよ。</p>	<p>説得力の工夫を全体で確認する。そうすることで、仲間とお互いの考えを読み合って説得力があるかどうかの規準ができ、より具体的に考えることができる。</p> <p>（視点1）</p>
<p>仲間の考えや日常生活とのつながりがあるとさらに説得力が高まりそう。自分の考えに生かしたいな。</p>		
<p>振り返り</p> <p>自分の考えにつながる日常生活の事例と一緒に考えてもらえたから、考えに入れようかな。</p>	<p>事例と意見のつながりが思ったより難しかった。仲間と読み合って、もっと説得力ある考えをつくりたい。</p>	<p>単元の導入で確認した説得力の工夫を全体で確認する。そうすることで、仲間とお互いの考えを読み合って説得力があるかどうかの規準ができ、より具体的に考えることができる。</p> <p>（視点2）</p> <p>全体共有の中で、特に日常生活とつなげて考えた子を取り上げる場をつくる。そうすることで、仲間の説得力を高める工夫の効果について考え、自分の考えに取り入れる価値について気付くことができるようにする。</p> <p>（視点2）</p> <p>説得力を高めるという目的を確認して振り返られるようにすることで、学んだ説得力の工夫について自覚し、自分の考えに生かしていきたいという思いを高めることができるようにする。</p> <p>（視点1）</p>

【本時の評価】

事例と意見のつながりや日常生活とのつながりなどの説得力の工夫を捉え、その捉えから自分の情報宣言に必要な考えについて、考えをもつことができている。（行動観察・発言・ワークシート）

緑丘小 第24回教育実践研究会 助言者・協力者一覧

日 程	部 会	助言者	授業協力者
I 期 9月18日(金)	社会	石川 円 (山鼻小)	栗原 聡太郎 (芸術の森小)
	算数	小松 孝昭 (米里小)	三國 将広 (附属札幌小)
	図画工作	富波 修 (中央小)	菊地 惟史 (幌西小)
	体育	大牧 眞一 (北教大教授)	佐藤 圭一 (手稲鉄北小)
	外国語	岩村 鋭介 (藤野南小)	大原 拓幸 (もみじの森小)
	道徳	長野 文洋 (開成小)	北山 達大 (平岸西小)
II 期 11月6日(金)	国語	唐澤 俊樹 (幌西小)	松岡 佑 (附属札幌小)
	理科	古川 勉 (山の手南小)	坂下 哲哉 (附属札幌小)
	生活・総合	大宮 健一 (幌南小)	助川 陽一 (大谷地小)
	音楽	山田 健一 (伏見小)	数田 浩樹 (発寒南小)
	特別活動	鎌田 哲至 (新光小)	福本 勇太 (福移学園)
	特別支援	田中 進一 (山の手支援)	大塚 陽子 (手稲中央小)

【研究 同 人】

【校 長】	三戸部文彦			
【教 頭】	中島 大輔			
【国 語】	坂野由美子（6年）	羅津日向子（5年）	中島 幹太（5年）	
【社 会】	谷川 充（4年）	奥泉 峻（5年）	平 侑真（3年）	
【算 数】	三浦聡一郎（2年）	池野 翔太（1年）	佐野 楓河（4年）	
	松村 倫宏（担任外）	間山ことみ（担任外）		
【理 科】	磯川 祐人（3年）	池田 拓樹（3年）		
【生活・総合】	森下 恭時（6年）	菅原 裕子（2年）		
【音 楽】	二木 愛花（1年）	工藤 壮生（2年）	喜井 調（主幹教諭）	
【図 工】	北野信次郎（5年）	渡辺恵美子（1年）		
【体 育】	齋藤 未来（6年）	清橋隆之介（4年）		
	清水 美鳥（養護教諭）	高久はるな（養護教諭）		
【道 徳】	高橋 周（2年）	中野梨紗子（5年）	酒井 利来（4年）	
	山内 聡子（教務主任）			
【外国語】	太田 麻子（専科）	和田 誉（4年）		
【特別活動】	黒田 健太（3年）	千葉 朋輝（6年）		
【特別支援】	木村 裕昭 石川 富美 森 達也			
	篠原 唯 岩井 千波 奥山 陽子			
【時間講師】	山根ひとみ			
【非常勤講師】	逸見 直和			
【事務職員】	相高 将吾 我妻 亜紀			
【栄養士】	吉川 雅代	【用務員】	大沼 伸	
【校務助手】	幕田 美雪	【補助員】	三上 大輔	
【学びのサポーター】	小平 治 阿波みどり 向井えい子			
【育児休暇】	花田 瑞希（教諭）	若林麻衣子（教諭）		
	勝谷ひなの（教諭）	加藤 葵（教諭）		

【転 出 同 人】

令和6年度

丸山 悠	加藤 美咲	前川 正大	佐々木美穂	渡部 厚	高橋 静香	小畑 曜子
杉浦恵利奈	狩野 量	仙北 明美	森下 美雪	中丸 修平	本間聖奈子	宿田 淳
木戸 優香	田中あやの	渡部みずき				

令和7年度

田中 義直	丹羽 洋彦	橋本萌々子	小島由紀子	道見佳奈枝	島田 周子	柿崎 健吾
青柳 大介	武田 若菜	大嶋 育美	川見 一弘	藤林 道治	佐藤 香代	下出千津留
長谷川優季	稲實 弘美	江川ひとみ	佐藤 亮輔	高本 泰子		